

播磨灘南部週間赤潮情報

住友 寿明 ・ 酒井 基介

Chattonella赤潮発生の予察は、昭和59年度から水産庁の委託を受け4年間実施した「赤潮予察実用化技術開発試験」の中で開発された手法を用いて昭和63年度から試験的に運用を行っている。また、その手法については、毎年の結果を検証するなかで改良が加えられている。情報の発行および配布先は前年どおりとした。

方 法

平成20年7月1日（第1報）～8月26日（第9報）の間、毎週火曜日に向こう1週間の赤潮発生・非発生について予察を行い、播磨灘南部週間赤潮情報を作成し情報提供した。

気象資料は気象庁の観測データを用い、プランクトンの出現動向と海況については週2回の調査結果を用いた。ま

た、水温と塩分については水産研究所鳴門庁舎地先から汲み上げている海水のデータを用いた。

結果および考察

予察と結果について表1に示した。有害プランクトンの細胞数は比較的低密度で推移し、注意が必要とされる細胞数まで増殖しなかった。今季はベースとなる栄養塩レベルが低かったうえに、台風や気象の影響による底層からの栄養塩補給も乏しく、珪藻が優占したため有害プランクトンが増殖しづらい環境であった。期間中の気象、水温、塩分、Chattonella及びKarenia mikimotoiの最高細胞数等については図1～5に示した。

表1 播磨灘南部週間赤潮情報結果

発行月日	No.	向こう1週間の予察	結 果
7月1日	1	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）は検出されず、カレニアミキモトイも低密度となっている。今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が0.02cells/ml、シャットネラ・オバータが0.05cells/ml検出された。カレニア・ミキモトイは未検出（7月3,7日）。
7月8日	2	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）は少なく、カレニアミキモトイも未検出。今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が1.33cells/ml、シャットネラ・オバータが0.67cells /ml、カレニア・ミキモトイが1.33cells/ml検出された（7月10,14日）。
7月15日	3	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）およびカレニアミキモトイは少ないため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が2.66cells/ml、シャットネラ・オバータが5.33cells /ml検出された。カレニア・ミキモトイは未検出（7月17,22日）。
7月22日	4	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）およびカレニアミキモトイは少ないため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）は未検出、シャットネラ・オバータが0.02cells /ml、カレニア・ミキモトイが2.66cells/ml、コクロディニウム・ポリクリコイデスが0.31cells/ml検出された（7月25,28日）。
7月29日	5	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）は検出されず、カレニアミキモトイも少ないため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が0.01cells/ml、シャットネラ・オバータが0.01cells /ml、カレニア・ミキモトイが0.02cells/ml、コクロディニウム・ポリクリコイデスが0.13cells/ml検出された（7月31日,8月4日）。
8月5日	6	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）およびカレニアミキモトイは少ないため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が0.67cells/ml、シャットネラ・オバータが0.67cells /ml、カレニア・ミキモトイが1cells/ml検出された（8月7,11日）。

発行月日	No.	向こう1週間の予察	結果
8月12日	7	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）およびカレニアミキモトイは少ないため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が0.67cells/ml，シャットネラ・オバータが0.11cells/ml，カレニア・ミキモトイが1.33cells/ml検出された（8月14,18日）。
8月19日	8	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）およびカレニアミキモトイは少ないため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）が0.1cells/ml，カレニア・ミキモトイが7cells/ml検出された（8月22,25日）。
8月26日	9	シャットネラ（アンティーカおよびマリーナ）およびカレニアミキモトイは少なく減少傾向にあるため、今後1週間でシャットネラをはじめとする有害プランクトンについては注意が必要とされる細胞数まで増殖する可能性は低い。	有害プランクトンは未検出（9月9日）。

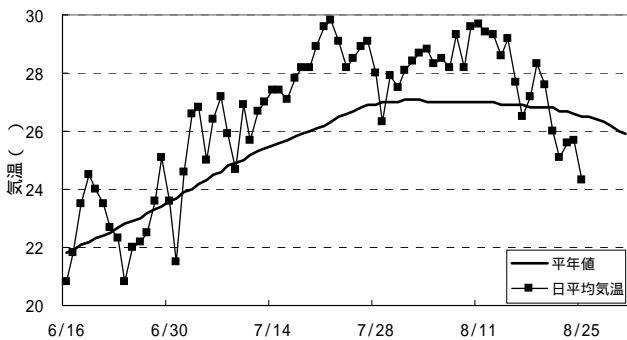


図1 日平均気温の推移

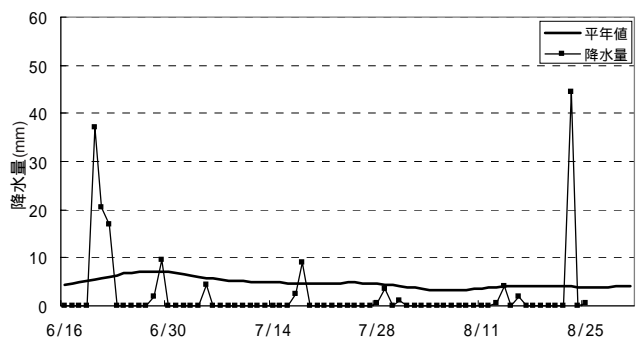


図2 降水量の推移

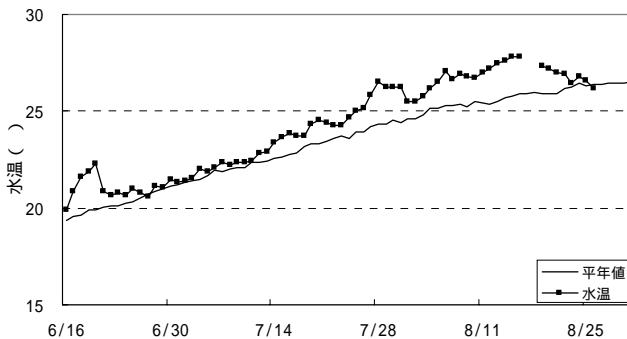


図3 鳴門庁舎汲み上げ海水水温

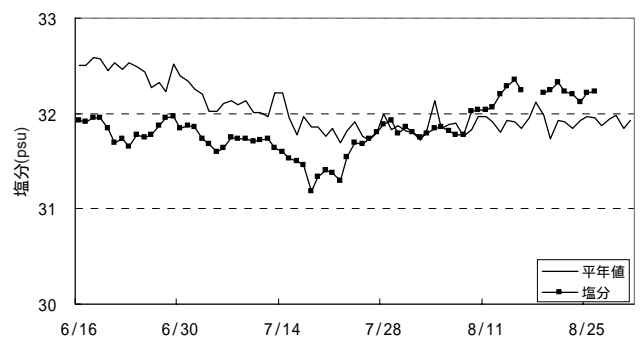


図4 鳴門庁舎汲み上げ海水塩分

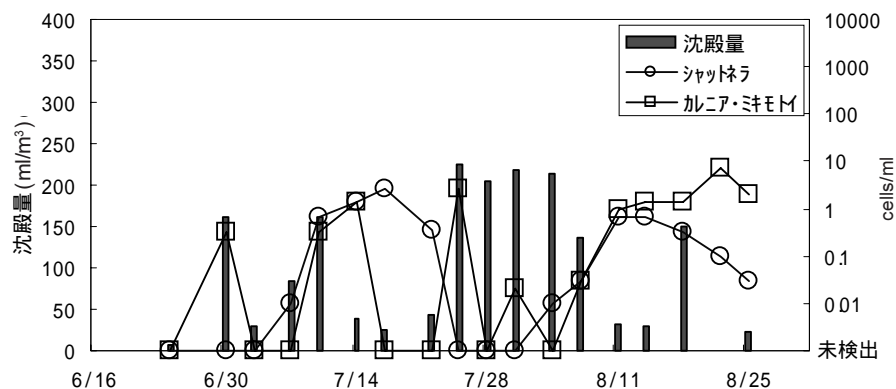


図5 ネット採集によるプランクトン沈澱量(0~20m層鉛直曳)と有害プランクトンの最高細胞数(全調査点対象)